

潮流



前回の潮流「独立の落とし穴」「教育」と『行政』の記事掲載後、読者の方々から「意見などをしていただきましたので、少し深追いをしてみたいと思います。」

卑近な例ですが、子どもの誕生から小学校入学までの『教育』と『行政』の対応は「幼稚園」と「保育所」です。「幼稚園」

鳥取県図書館協会会長

山田 晋

は小学校就学前の教育施設として文部科学省が、民党政権下では「幼保一元化」と名前にもこだわらずに、検討会が設置して厚生労働省が所管されています。それぞれの設

立目的を達成する中、時代は男女共同参画時代を迎え、少子化社会、高齢

では「幼保一体化」、自

先立ち、平成18年度より

いち早く保育所を教育委員

会事務局「幼児教育課」

で所轄し、経緯を見守り

ました。保護者は所得額

るわけですが、当時保育

所経費は子ども1人に年

オイ！社会教育、混沌を泳げ！⑧

調整だけでは疲弊する

化社会、核家族化や育児サービ

サービスの細分化など子

育て環境が多様化しまし

た。

幼稚園職員は教職員組

合、保育所職員は労働組

合などと、あらゆる調整

所が求められ、両

は難作業のようでした

が、ようやく生まれたの

がスタートし20年近くに

る「認定こども園」です。

向が生まれていると私は

この時代すつ勢を受け

平成8年、幼稚園と保育

所の共用が求められ、両

は難作業のようでした

が、ようやく生まれたの

がスタートし20年近くに

る「認定こども園」です。

向が生まれていると私は

後には放課後児童クラブ

が、また市町村によって

は土曜日の教育活動と、

多彩です。

しかし、この保護者の

要望を満たし、課題を調

整する流れに、新たな傾

向が生まれていると私は

究極、保護者の仕事に

支障がでないように、社

会の中に子育てのきめ細

かい受け皿をつくるの

か、それとも保護者だか

らでできる子育てが円滑に

地域社会を構築したいも

のです。

民党政権下

る「認定こども園」です。

向が生まれていると私は

会が柔軟になるのか。こ

(米子市)